

政策コミュニケーション・政策検証

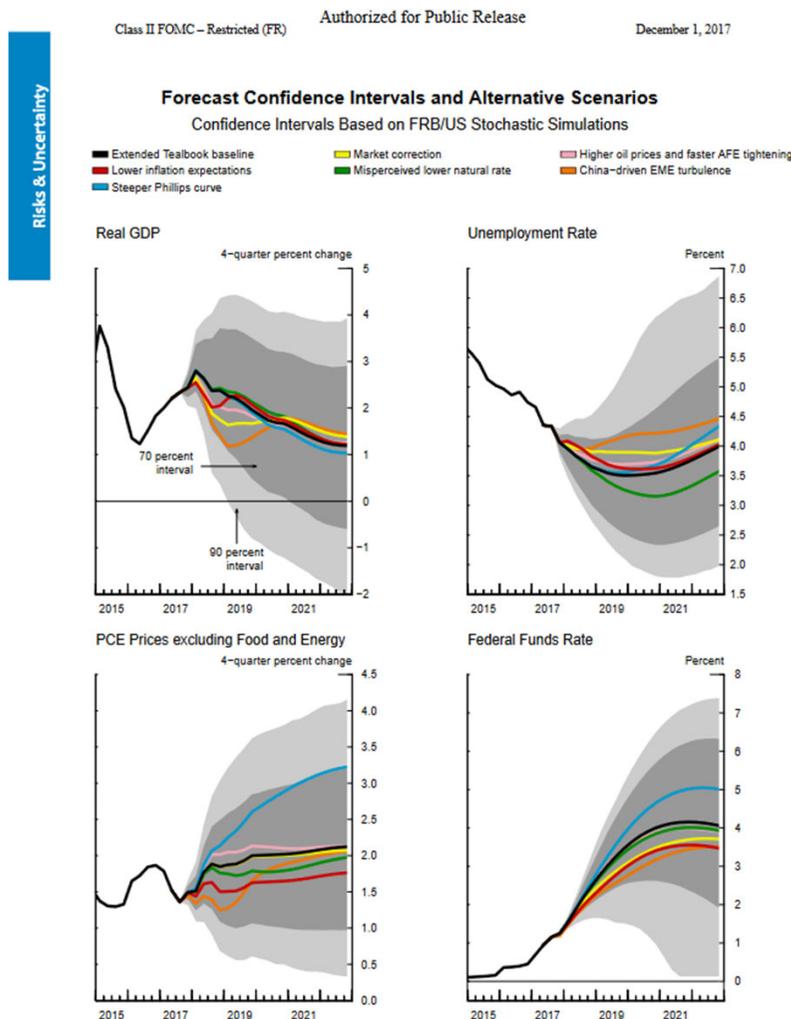
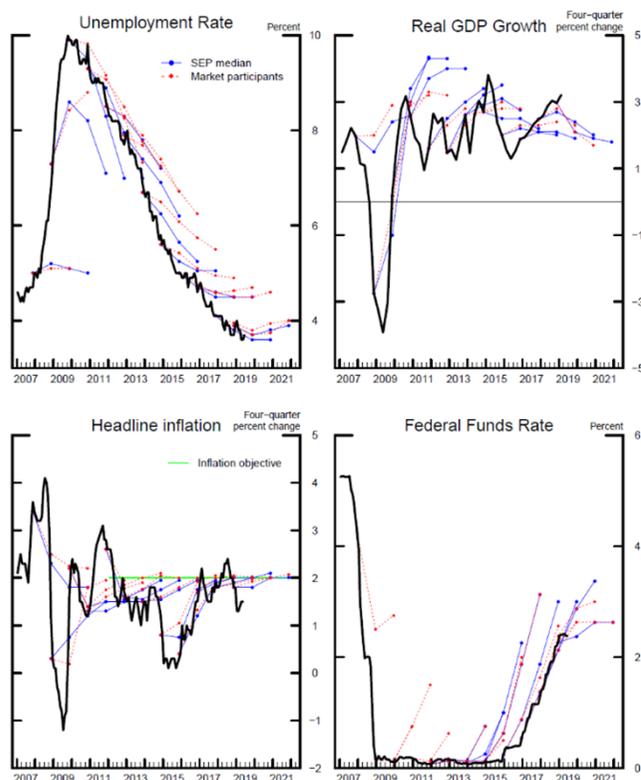
2023年4月18日
仲田泰祐

マクロ経済運営における「今後の見通し」の活用

- 生産的な政策議論のためには現実的な見通しといくつかのリスクシナリオの提示が有用

- 楽観シナリオだけでなく悲観シナリオ
- 不確実性の定量化・可視化
- 過去の見通しと現実の乖離の提示

Figure 4: Forecast Revisions



- <https://www.federalreserve.gov/monetarypolicy/files/FOMC20171213tealbooka20171201.pdf>
- <https://www.federalreserve.gov/econres/feds/monetary-policy-and-economic-performance-since-the-financial-crisis.htm>

検証プロセスの改善

- 「デフレ脱却と持続的な経済成長の実現のための政府・日本銀行の政策連携について（共同声明）」（平成25年1月22日）
 - 「経済財政諮問会議は、金融政策を含むマクロ経済政策運営の状況、その下での物価安定の目標に照らした物価の現状と今後の見通し、雇用情勢を含む経済・財政状況、経済構造改革の取組状況などについて、定期的に検証を行うものとする。」
 - https://www.mof.go.jp/public_relations/statement/other/20130122.pdf
- 検証の現状
 - 経済諮問会議における年4回の「金融政策、物価等に関する集中審議」、年2回の「中長期の経済財政に関する試算」
- 検討に値する検証の改善
 - 労働市場に関する指標、格差に関する指標等の提示
 - 名目賃金・実質賃金（全体）、労働生産性、労働参加率、名目賃金・実質賃金（性別・学歴別・所得別）等
 - 中長期シナリオ提示の際には不確実性の提示
 - 過去のシナリオと現実の乖離の提示

検証プロセスの改善

- 数年に一度、定量的な分析も活用した「本格的な」検証作業をする機会を設けることも有用
 - 財政金融政策に関して、政府エコノミスト、大学研究者、民間エコノミスト等による膨大な定量的な政策効果検証分析が存在
 - そういった知見の整理、それらに基づく政策効果・副作用の総合的判断をまとめることも今後の政策を考える上で有用
 - 政策現場以外の人々と協力しながらの検証も検討に値する
 - 参考:「Review of Monetary Policy Strategy, Tools, and Communications」
 - <https://www.federalreserve.gov/monetarypolicy/review-of-monetary-policy-strategy-tools-and-communications.htm>
 - 検証プロセス自体が一般国民とのコミュニケーションとして役立つ可能性
 - 2024年には、「経済・財政一体改革委員会」が2025年の基礎的財政収支黒字化目標に向けた10年間の取組の総括予定。ここでも「本格的な」検証作業が理想的。